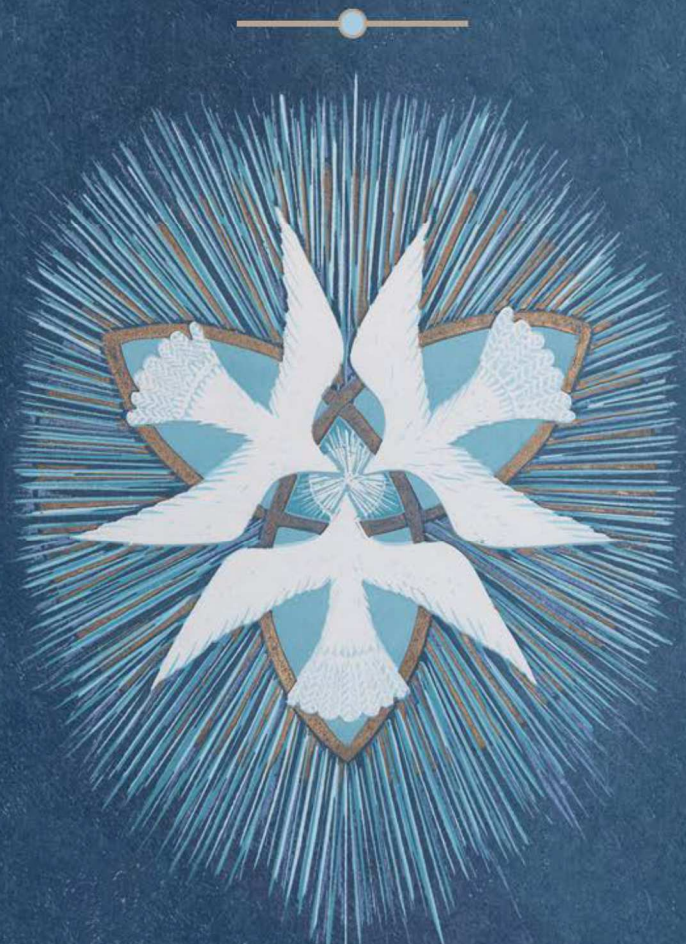


THY KINGDOM COME
み国が来ますように

NOVENA
ノベナ (9日間の黙想)



パトロの手紙 I の黙想
ジャスティン・ウェルビー大主教



イラスト Anna Heslop
InstagramでAnnaをフォロー  miss_print_19

本書で使用されている聖書本文は、
『聖書 聖書協会共同訳』から引用しています。

聖書 聖書協会共同訳：
©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

無断転載はご遠慮ください。

昇天日と聖霊降臨日の間の日々、多くのキリスト者は、何世紀にもわたって、最初の信徒らと同じように、祈りに集中することを習慣にしてきました。キリストが天に上げられる日、弟子たちに与えた最後の教えは「わたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい」（使徒 1:4）でした。

それから、使徒たちは、「オリーブ畑」と呼ばれる山からエルサレムに戻って来て、…泊まっていた家の上の階に上がった。…彼らは皆、女たちやイエスの母マリア、またイエスの兄弟たちと心を合わせて、ひたすら祈りをしていた。

使徒言行録 1:12-14

聖霊を待つように、という教えは、とても大切です。それは、私たちに力を与える聖霊がおられなければ、キリストの忠実な証人であることができない、ということだからです。私たちは、キリストが私たちに呼びかけておられるような人間になるために、御父からの賜物を必要としているのです。聖霊は、個人的な体験のためではなく、私たちがこの世でキリストを向いて生きるために必要なのです。

「み国が来ますように」は、特定の 5 人を心に留め、それによって御父の賜物が私たちを通してその人々のために働き、またその人々自身の人生に触れられるよう祈るようにと、私たち一人ひとりに勧めています。この数日間、誰のために具体的に祈ることができるか、しばらく考えてみることをお勧めします。

このノベナ（9日間の祈り）は、御父が約束された賜物をあなたが待ち望むことができるように、聖ペトロの第一の手紙にある9つの特別な節に焦点を当てます。毎日、そのうちの一節を取り上げ、その箇所によって自分自身が形づくられることを願い求めます。ペトロの手紙は私の大好きな書の一つで、この夏のランベス会議のテーマにもなっています。この書は、私たちの心を神に開き、全世界の神の家族に目を挙げさせます。

日ごとの聖句に合う素晴らしい挿絵を描いてくださったアナ・ヘスロップさんに感謝します。これらの言葉と絵の両者が、父なる神が約束された賜物を待つあなたのために、場所を備えてくださるよう祈ります。

1. _____

2. _____

3. _____

4. _____

5. _____

I ペトロ 1:1-2

¹ イエス・キリストの使徒ペトロから、ポントス、ガラテヤ、カパドキア、アジア、ビティニアの各地に離散し、滞在している選ばれた人たち、² すなわち、父なる神が予知されたことに従って、霊により聖なる者とされ、イエス・キリストに従い、また、その血の注ぎを受けるために選ばれた人たちへ。恵みと平和が、あなたがたに豊かに与えられますように。

キリスト者であるということは、「違ったもの」という印を受けることです。使徒ペトロは第一の手紙の中で、小アジアでよそ者や外国人として生きる、離散した人々の共同体に宛てて書いています。この人たちは、自分たちが社会で異質な存在として扱われ、嫌がらせを受けたり拒絶されたりすることが、どのようなことであるかを知っていました。

しかしペトロは、別の意味で離散した人々に向けても書いています。キリスト者である私たちは、父なる神のおられる天国の永遠の住まいから引き離されて、地上での生活を離散した状態で過ごしているのだと。

キリスト者であるということは、他の人とは異なるアイデンティティを与えられているということです。家族、国籍、お金をいくら持っているか、あるいは他に、自分らしさに関わることのある何かによって自分を定義するのではなく、洗礼を受けた私たちは「キリストのうちに」いるのです。それは、与えられてはいても、いまだ完全には知られていない深い真理です。私たちは、ただイエス・キリストの人性において、自分のアイデンティティを見出すようにと召されているのです。

ペトロは、離散させられながらも神に選ばれた人々に対して語っています。これらの共同体は、地上では悪口を浴びせられるかもしれませんが、聖霊によって潔められ、聖なるものとされています。キリスト者とは、地上の権力や指導者を権威の究極的な源とは考えず、イエスに忠実に従う人々のことです。

これらはすべて、聖霊の賜物によってのみ可能となるのです。人々がキリストのために心を開いてくれるよう熱心に祈るということは、『「違っている」』という印にふさわしい生き方とは、どのようなものだろうか?』という問いから始まります。私たち

の証しは、信仰に興味を引き起こすものでしょうか？むしろ抵抗感を持たせるようなものになっていないでしょうか？イエス・キリストの福音によって、私はどのように違った生き方をしているのでしょうか？そして他の人はそれをどのように見聞きするのでしょうか？

ペトロは現実の問題に直面している現実の共同体に対して語っていますが、神の豊かな恵みと平和の光の中で人々を歓待します。今日この旅を始めるあなたが、出会うすべての人にその恵みと平和をもたらすことができますように。



I ペトロ 1:12

¹² 彼らは、それらのことが、自分たちのためではなく、あなたがたのためであるとの啓示を受けました。それらのことは、天から遣わされた聖霊に導かれてあなたがたに福音を告げ知らせた人たちが、今、あなたがたに告げ知らせており、天使たちも、うかがい見たいと願っていることなのです。

人はみな、自分の人生に意味を求めています。私たちは皆、何かを探しながら人生を歩んでいます。おそらく、愛されたい、受け入れられたい、本当の自分を見てもらいたいと望んでいるでしょう。私たちが誰であるか、なぜこの地球にいるのかを理解したいと切に願っているのかもしれませんが。私たちは、たとえ気づいていなくても、私たちの神、創造主に近づきたいと願っています。私たちがこんなにも意味を求めているのは、神が私たちをこのように創られたからです。そして、神が与えてくださった意味だけが、私たちの探し求めるものを満たしてくれるのです。聖アウグスティヌスの有名な言葉にあるように、「主よ、あなたはわたしたちを、ご自身に向けて造られました。あなたのうちに憩うまでは、わたしたちの心は安らぎを得ません。」

これまで生きてきた人は皆、このような切望に満ちた痛みを知っていました。今日の箇所では、ペトロは預言者たちのことを語っています。彼らもまた、「自分たちの内におられるキリストの霊が、…いつ、いかなる時を指すのか調べたのです。」(1ペトロ 1:11) キリストはまだ生まれていませんでしたが、聖霊が人々の内におられ、神の最大の賜物であるキリスト・イエス、すなわち私たちとともにおられる神を予見するようにしておられたのです。

そして今、その方は現わされ、良い知らせが告げられました。そして私たちは、2500年以上も昔に神に近づこうとしたこの預言者たちによって、今も仕えられていることを知るのでした。私たちが、神の約束を自分の周りの人々に知らせるだけでなく、自分がいなくなった後でも、求めている人々を助けられるようなつながりを築くことができるのは、神の驚きとしか言いようがありません。

そして、本当に驚くべき知らせは、私たちが最も探し求めているものが、無償で与えられているということです。私たちが探し求めている神は、私たちのところに来てくださり、私たちとともに生きてくださっただけでなく、私たちのために死んでくだ

さったのです。私たちは、天から遣わされた聖霊によって、この良い知らせを伝えられました。天使たちでさえも、私たちの救いの不思議さを、より近くで見たいという願いを持っているのです。

この賜物によって、すべての人は救いへと引き寄せられます。預言者たちはそれを探し求めました。天使たちもそれを見たいと切に望んでいます。神は、私たちが神の存在を切に望んでいることをご存知ですが、私たちの神への切なる望みは、神が私たちを切に望んでおられることの淡い鏡像でしかありません。だからこそ、神は御子を遣わされたのです。それゆえに、神は私たちにご自身の霊を与えてくださるのです。

あなたの祈りの中心である 5 人の人物を思い浮かべてみてください。彼らの探し求める心を、あなたはどのように感じていますか？旧約聖書の預言者たちのように、あなたはどのように光を照らし、人々が探し求める宝物に導いていくことができるでしょうか。あなたが一生をかけて探し求めているものは、私たちに手を差し伸べ、私たちがその手を握り返すことを望んでおられる神のほうへ、どのようにしてより多くの人々を向かわせることができるでしょうか？



I ペトロ 2:2

² 生まれたばかりの乳飲み子のように、理に適った、混じりけのない乳を慕い求めなさい。これによって成長し、救われるようになるためです。

赤ちゃんは、奇妙で過酷な新しい世界に生まれ、世話をしてくれる人に完全に頼っています。赤ちゃんの欲求と本能は、食べ物、暖かさ、愛情といったごく基本的なものです。これらのことに対して、赤ちゃんは他者に依存する、無力で弱い存在なのです。私たちは、子どもであるキリストの姿を思い起こします。キリストなしには本当に無力である私たちのために、神はご自身を小さくされ、無力にされたのです。ペトロがこの手紙を書いている人たちも、この奇妙で過酷な世界、私たちが失敗を犯す世界、神だけが慰めを与えてくださる世界に住んでいるのです。

しかし、赤ちゃんは成長します。願わくば、赤ちゃんは賢く、親切で、社会の役に立つ一員となるでしょう。しかし、それは赤ちゃんの世話をする人たちからの養いによってのみ可能となるのです。聖書における「乳」は、しばしば祝福と豊かさを表します。母親は、子供が必要とするときにはいつでも、条件もなく、「稼ぐ」ことも「受ける資格」も必要なく、愛のゆえに乳を無償で与えるのです。

乳は命の源であり、いつくしみのしるしですが、同時に消化しやすいものでもあります。生まれてすぐに肉を与えても、子どもにはそれを噛む歯がありません。

それと同じように、私たちはキリストのもとに来たとき、再び生まれるのです。私たちは神の子として新しい人生を歩み始めます。神は私たちに成長、成熟、養育の場を与えてくださいますが、この過程は生涯にわたって続きます。私たちは決して乳を飲み干すことはありません。私たちがこの旅を始めるときに与えられたものは、クリスチャンとしての私たちの生涯を支えてくれるからです。

この新しい人生を強め、私たちを養う乳とは何でしょうか。

それは、聖書を通しての神の御言葉と、私たちの心への聖霊の呼びかけだと思えます。私たちはもろい存在ですが、御言葉が私たちを強めてくださいます。私たちが飢え渴くとき、神だけが私たちを満たすことができになります。私たちは憎しみと分裂に囲まれています、神の豊かな祝福は、私たちに愛と喜びがもたらされ得ることを告げています。

自分を強めるために与えられてきた経験すべてをもとに、私たちは他の人々に呼びかけ、今度はその人々が養われるように導くことができます。私たちは神の愛を広め、周りの人々も神の言葉によって強められ、助けられるようにすることができるのです。私たちが神の前に最も深く抱きしめる 5 人の友人が必要とするものは、神から与えられるのです。

キリストは、私たちが子どものものであること、自分自身ではなく、神の約束、イエスの人性、そして聖霊の存在に頼るようと呼びかけています。私たちは子どもようになり、神の救いに向かって成長するために、私たちを強め、養ってくださる神のみを単純素朴に求め、頼みとしようではありませんか。



I ペトロ 2:5

⁵ あなたがた自身も生ける石として、霊の家に造り上げられるようにしなさい。聖なる祭司となって、神に喜んで受け入れられる霊のいけにえを、イエス・キリストを通して献げるためです。

建物には、一個一個の、そしてすべてのレンガがなくてはならないものです。キリストは、私たち一人ひとり、そしてすべての人がご自分の教会の生きた石であり、互いに支え合いつつ、建物の中で基礎としての役割を果たしているのだと言われます。

何かを建てる時は、まず基礎から始めます。基礎が深く確かでなければ、どんな建物も支えられません。クリスチャンとして、神の建物における生きた石として、私たちは一つの基礎を持っています。イエス・キリストです。教会の生きた石であることと、自分の建物の枯れた材木であることの違いは、キリストにある私たちの基礎は日々新たにし、深め、祝福する必要がある、ということです。さもなければ、私たちを支える土台から切り離されてしまう恐れがあります。私たちは、生涯を通してイエスを基礎として堅く保ち続けられない限り、すぐに崩れてしまうのです。

ペトロが手紙を書いた地域では、建物は人々が自分の権力や地位を誇示する手段でもあったでしょう。現代と変わらず、人々は手の込んだ記念碑や、成功や権力、社会的地位を示す物理的な建造物を建てたことでしょう。しかし、ペトロが語りかけていたクリスチャンたちは、無力でした。そのような壮大な装飾に対抗することも、礼拝所を建設して神の力への信仰をたたえることもできなかったでしょう。

この言葉を念頭に置くと、ペトロにとって、巨大な神殿を建てたり、神のために大きな記念碑を建てたりすることができなくても、それは重要ではないのでしょうか。神はそのような表面的なものには関心がないのです。神が望まれる石は、「人々からは捨てられたが、神によって選ばれた」(一ペトロ 2:4) 石です。神は、見捨てられた者、必要とされない者、愛されない者、拒まれた者を求めておられます。このような人々こそ、その人生を通して、神の偉大さを証しすることができるのです。私たちの人生、私たちの身体、私たちの存在そのものが、私たち一人ひとりに場所を備えてくださる神の変革の力を証しするものとなるのです。そして、私たちが共に神のための霊的な家として建てられることによって、これが実現するのです。

生きた石となるとは、自分自身の栄光や力のために建物を建て

るのではなく、自分の人生によって神をほめたたえることです。それは、権力や地位に対する考え方を変革することです。神がまさに私たちが必要としておられるところに行くことです。無視され、疎まれ、虐げられていた存在から、神の神聖な計画の一部となるように、変容させ、変容させられることです。神の民として生きるという言葉を生につけることです。そして、このためには一人ひとりが欠かせない存在なのです。あなたが神の御前に置いて祈る 5 人には、神の建物の中に、誰も代わることのできないその人だけの場所があります。聖霊だけがこれをなし得るのです。

今日、私たちは、自分たちで建てたものでは到底及ばないような形で、私たちの人生がどのように神をたたえ、神の恵みを証しているかを振り返ります。聖霊が私たちを神の栄光のための住まいとして造ってくださるように、私たちが堅く保つ、イエスにある基礎をより深く、より強くするために祈りましょう。



I ペトロ 2:9-10

⁹しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある顕現を、あなたがたが広く伝えるためです。¹⁰あなたがたは、「かつては神の民ではなかったが今は神の民であり憐れみを受けなかったが今は憐れみを受けている」のです。

第一ペトロのこの箇所は、聖書の中で最も心動かされる箇所であると思います。かつて除外された民が、今は受け入れられている。追いやられた者たちが、今は選ばれている。侮られた者が聖なる者とされ、拒絶された者が愛されている。

ペトロが手紙を書いている人々は、その信仰のゆえに周辺に追いやられ、抑圧され、苦しめられるということがどのようなことかを知っています。この人たちは、地位のない人たちです。神の目から見れば別ですが。この人たちは、無名で、誰の目にも留まらない、重要でない人たちです。宇宙の創造主にとっては別ですが。

この聖句では、世間が見ているようにではなく、神が見ているように自分自身を見るようにと、私たちは呼びかけられています。おそらく課題として与えられているのです。この世で最も重要であろう価値観—地位、富、権力—によってではなく、キリストにおける神の果てしない愛によって自分自身を評価するよう求められています。キリストにおける私たちのための神の働きのゆえに、私たちは価値ある者、愛する者、選ばれた者と呼ばれています。あなたは、神の目に価値ある者、愛する者、選ばれた者と呼ばれるのです。

このようにして、この世におもねる者ではなく、神の民であり、神の「特別な所有物」であることを私たちは知るのであります。私たちの身分は、豊かさ、希望、忠実、そして愛によって特徴づけられます。キリストがなされたことは、自分たちには価値がないと言われていた民に、永遠の価値という感覚を与えてくださることです。私たちが、自分を役に立たない者、重要でない者、失敗した者、恥ずべき者であると思うとき、神の御言葉は、私たちの本当の姿を思い起こさせてくれます。それは、神の民であるということです。

これは私たちを変容させる愛です。しかし、それは目的があつてのことです。なぜなら、その賜物には召命が伴うからです。

「あなたがたを闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある顕現を、あなたがたが広く伝えるため」です。私たちは神の変容の担い手として変容させられ、私たちの目は開かれます。他の人たちを、本当に見ることができるようにするためです。

これは、私たちが様々な理由をつけて、他者を「劣った者」と判断してしまうという人間の傾向に関わるものです。キリストにおいて、神はその人たちをも選ばれ、私たちと共にご自分の民の一員とされたのです。私たちの間に境界線や壁を作ることはできません。私たちが排除し、無視し、拒絶したくなるような人たちこそ、神が集め、迎え入れる人たちなのです。

あなたの 5 人の友人のことを考えましょう、彼らはこの中に含まれているのです。ああ！聖霊がこの人たちのうちに働き、このことを自分自身で知ることができますように。

その変化は驚くべきものです。私たちの恥のしるしは、神の愛のしるしになるのです。今日、私たちが祈るとき、私たちが出会うすべての人を、神の愛に満ちた目を通して見ることを誓おうではありませんか。



I ペトロ 3:4

⁴ 柔和で穏やかな霊という朽ちないものを心の内に秘めた人でありなさい。これこそ、神の前でまことに価値があることです。

私たちは幼い頃から、本を表紙で判断しないようにと言われてきましたが、これを守るのはなかなか難しいものです。しかし、聖書は、見た目で判断することの危険について明確に述べています。「うわべで裁くのをやめ、正しい裁きをしなさい」(ヨハネ 7:24)。十字架上のキリストを見たほとんどの人が、彼をただの犯罪者であり、恥ずべき屈辱的な死に苦しんでいる人としか思わなかったことは、驚くには及びません。多くの人が見たのは失敗したメシアであり、私たちのために悪に勝利した神という驚くべき真実を見ることができませんでした。物事は、必ずしも見た目の通りとは限りません。

しかし、私たちの世界では見た目が大切です。私たちは、自分自身をどのように見せるかについて、とても多くのことがあると感じています。私たちの多くが、受け入れてもらうためには、見せかけの自分をつくらなければならない、うまく溶け込まなければならない、ある一定の格好をしなければならない、と感じています。私たちの美の認識は、稀少性に基づいています。それは一時的で限定的なものであり、比較や嫉妬、不安や不足を引き起こす原因となっています。

これは、神が私たちを評価する仕方ではなく、また、私たちが自分自身をどう評価するかについて、神が望んでおられる仕方でもないのです。

これに対し、聖ペトロが「内なる霊」と呼ぶものの特徴は、豊かで限りないということです。それは、嫉妬ではなく喜び、不安ではなく感動を与えるものです。外面的な美しさを追求することは、自分自身を良い気分させようとするということです。内面的な美しさを築き上げることは、他の人々にも良い気分をもたらします。

ペトロがこの箇所で言及している女性たちは、社会的地位の低い人たちです。彼女たちは、神から認められ、愛されている一人の人間としてではなく、「所有するもの」として、しばしばモノ扱いされてきたに違いありません。しかしペトロは、彼女たちが内面に豊かな人生を持っていること、つまり、その時代の期待に反するような人生、他人のためではなくイエスのために生きる人生を持っていることを認めています。ペトロは、最高の

権威は人間でも主人でもなく、私たちをご自身の姿に似せて造られた神であると確信を持って語っています。

その方のうちに神が造られたキリスト・イエスは、私たちに人をありのままに見るようにと呼びかけています。それは、人々に真に心から聴き、正しく知るように、そして最も深いところで私たちに出会い、私たちを開いてくださる神の霊と共に働くように、という呼びかけです。私たちは、まずその人の話を聞こうとすることなしに、イエスについて語ってしまうことがあまりに多いのです。本当のことを知る前に判断を下してしまうことがあまりに多いのです。今日、私たちは、不十分であるという自分の恐れではなく、神の豊かな愛に信頼を置くならば、必ずや出会うことができる真の美しさについて考えています。それを可能にするのは神のみです。

そして、私たちの 5 人の友人のために、神がその霊によって彼らの霊に繋がってくださるように祈りましょう。

イエスの人性と聖霊の働きだけが、人々を神のもとに導きます。神は何も私たちから必要としておられず、ただ私たちの愛を返すことのみを求めておられるのです。



I ペトロ 3:18

18 キリストも、正しい方でありながら、正しくない者たちのために、罪のゆえにただ一度苦しみました。あなたがたを神のもとへ導くためです。キリストは、肉では殺されましたが、霊では生かされたのです。

私たちが生きていく上で、苦しみは避けて通れないものです。ペトロは苦難の共同体、つまりキリストへの信仰のために大きな苦難を経験している人々に宛てて書いています。ペトロが示唆しているのは、この追放中の人びとの勇気と弱さは、単にキリストへの信仰のしるしというだけでなく、イエスの十字架の模範に従うものでもあるということです。

キリスト者であることをもって、苦しみから逃れられるということは決してありません。イエスの死と復活は、私たちが辛い経験や拒絶感、喪失感から免れさせるものではありませんし、悪いことが起こらないようにするものでもありません。私たちは傷つき、嘆き、辱めを受けるでしょう。そして、最終的に私たちは死ぬのです。イエスが私たちのためにしてくださったことは、私たちに苦痛のない人生を保証するものではありません。

しかし、イエスの死は、たとえ苦しみの中にあっても、それが時には最も激しく、奥深い苦しみであっても、神の祝福を知り、経験するための扉を開くものなのです。キリストの十字架上の苦しみを与えるものは、私たちがそれまで一人きりで経験しなければならなかった苦しみを進んで負ってくださるほど、神が私たちを深く愛してくださるという親密さです。キリストの復活が約束するのは、私たちのこの世の仮初めの生活という現実にあってもなお、父なる神との永遠の命です。

最も驚くべきは、私たちがまだ敵であったにもかかわらず、神が私たちのためにこの想像を絶する苦痛を受けられたことです。私たちが神を拒絶しているにもかかわらず、神は私たちのために進んで死んでくださるのです。今日、私たちはまだイエスのもとに来ていない 5 人のために祈り続けますが、キリストがすでにその人のために死んでくださったこと、その人を愛する者と認めてくださったこと、その人の痛みのうちにも共にいたいと願ってくださっていることを祝いましょう。その人たちが聖霊によって生かされるように、私たちは祈ります。

この箇所ので、ペトロは苦しみを全く新しい、宇宙的な軸に据えています。神が私たちのためにしてくださったことは全宇宙に

響き渡りますが、その中心にあるのは、打たれ傷ついた一人の人間です。ペトロはこう記します。「キリストの苦しみにあずかればあずかるほど、喜びなさい。それは、キリストの栄光が現れるときにも、喜びに満ち溢れるためです。」苦しみを深くご存知である神にとって、私たちの苦しみは取るに足らないものではありません。しかし、それは最終的なものでもありません。苦しみの向こう側には勝利があるのです。イエスに起こったことは、私たちにも起こるからです。体には死がありますが、霊においては生かされているのです。

今日、知り合いで苦しみを体験している人たちが、神のみ腕のうちに慰めと導きを感じられますように。神のもとでは、苦しみは決して決定的な言葉にはならないのです。



I ペトロ 4:6

6 死んだ者にも福音が告げ知らされたのは、彼らが、肉においては人として裁かれても、霊においては神のように生きるためです。

私たちは時に、自分が最も避けたいことを引き起こしてしまうことがあります。私たちがしばしば恐れ、それでいて自ら作り出してしまうものに、分離があります。私たちは、自分とは異なる人たち、つまり「他者」だと思ふ人たちに対して距離を感じています。過去の人たちから切り離されたように感じます。時には、神から切り離されたと感じることもあります。私たちからは、手の届かない存在だと思ふ人もいます。時には、私たち自身が暗闇、孤独、恐れに飲み込まれ、手の届かないところにいるように感じることがあります。

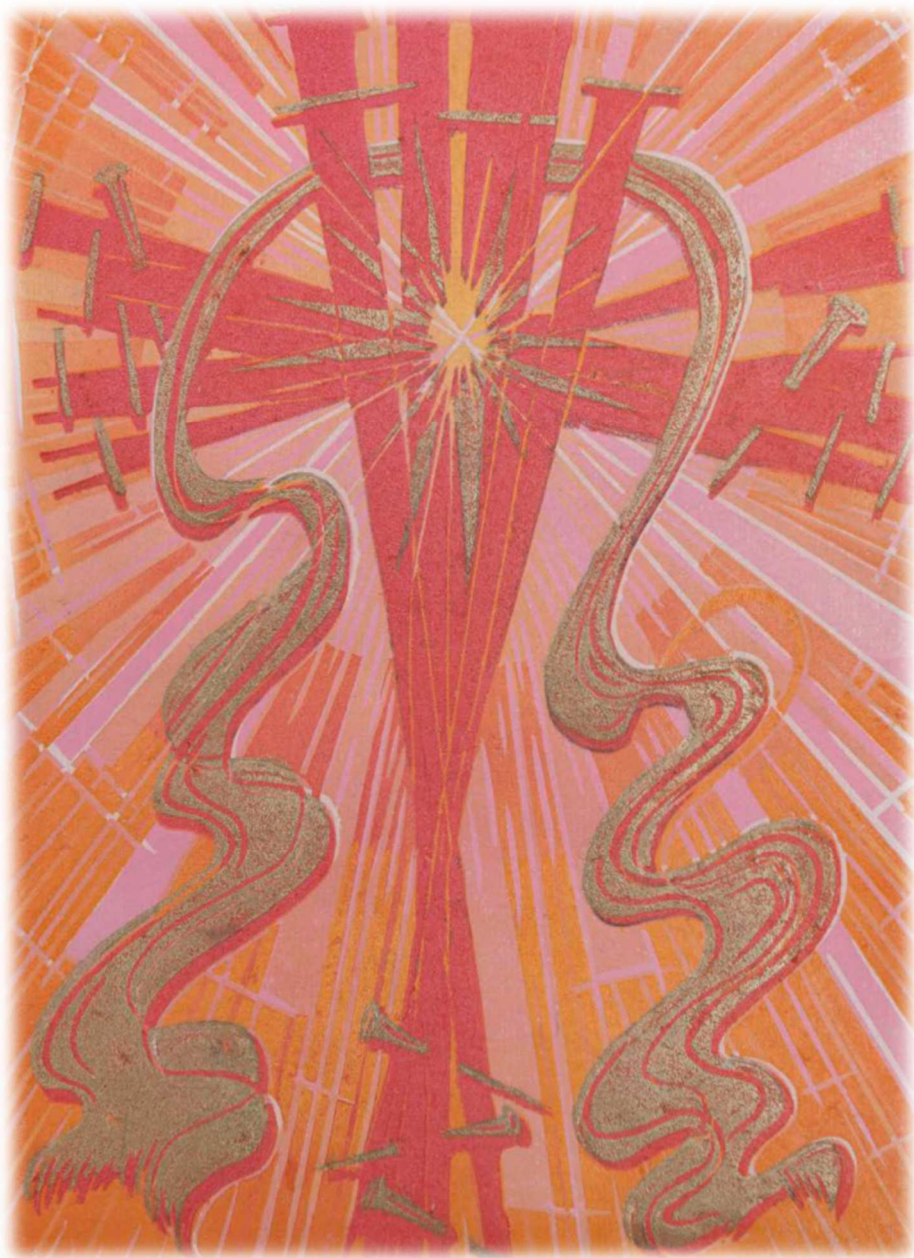
この箇所には、私たちにとって、なんと深いメッセージが込められていることでしょう。イエスは私たちを死から救い出し、命へと導くために、暗闇の中、私たちが最も恐れる場所へと降りていかれました。暗闇に飲み込まれていた人々は、この福音を聞き、栄光あふれる神の光の中に導かれるのです。死んだ者は、新しい命を生きる者とされ、それによって神の奇跡を証しするのです。

多くの人々は、肉体的には生きていますが、真に生きているとは言えません。環境や状況や心配事によって、沈んだ状態で生きている人がいます。福音は人々に新しい命を与えます。神は行き詰まりを転機へと変え、拒絶を受容へと変え、死を新しい命へと変えます。福音は、誰も贖いの外にあるものはない、と語ります。悔い改めが真実であれば、神が赦されない罪はありません。私たちがあきらめてしまった人、もう望みはないと思っている人を、神は決して探すことをやめません。その人たちが見つかると、神は祝ってくださいます。「見失った羊を見つけましたから、一緒に喜んでください」(ルカ 15:6)。

人々が背を向けるところで、神は迎え入れます。私たちが裁きに駆り立てられるとき、神は愛するようと呼びかけます。肉が避けがたい死を迎えるとき、霊は生きます。それは、自分の基準で枯れてしまうのではなく、神の基準で生きようという呼びかけです。今日、あなたの5人の友人のために祈ってください。愛のメッセージを届けるために、あらゆる境界を越えるその方の霊が、その人々に到るかもしれません。

今日、あなたの5人のために祈るとき、心に留めてほしいこと

があります。それは、神の存在と約束の外にいる人は誰もいない
ということです。



I ペトロ 4:14

14 キリストの名のゆえに非難されるなら、あなたがたは幸いです。栄光の霊、すなわち神の霊が、あなたがたの上にとどまってくださるからです。

迫害の中にある希望は、第一ペトロ書全体の明確な主題です。それは励ましであり、約束でもあります。苦しみは栄光へと道を譲るのです。それは、過去、現在、未来を通じて働きます。イエスは十字架上で勝利し、彼をいのちによみがえらせることで、父なる神は死に打ち勝たれました。聖霊は今ここに私たちと共におられます。キリストは栄光のうちに再び来られます。そこには希望を抱くあらゆる理由があるのです。

ここでペトロは、ペトロが手紙を書いた共同体、そして現代世界の多くの人々にとって、その時代の社会で恥ずべきこととされていることを取り上げます。それは、クリスチャンであることです。

イエスはあざけられ、侮辱され、非難される中で死んでいきました。イエスは恥辱のうちに死なれました。しかし、イエスはこのために生まれ、この時のために来られたのです。この死は、神の栄光を現すものだからです。神の栄光は、キリストの屈辱の中に見られるものです。神は私たちの罪を負い、私たちの痛みを共にしてくださるからです。神の栄光とは、神がいかに私たちを愛しているかということです。この恥ずべき死は、恥を勝利に、聖ならぬものを聖なるものに変えます。

クリスチャンとしての人生は苦しみばかりではありません。最も暗いときでさえも、希望への確かな望みがもたらす喜びを経験することです。いつの日か、すべてが新しくされる世界が約束されているのです。

希望を生きる姿を人々が目にするとき、素晴らしいことが起こります。生ける神は、人々に生ける希望を与えてくださいます。

私たちがクリスチャンとして生きるとき、人間の苦しみを知りつつも、神の祝福を経験します。聖パウロは、私たちが神の苦しみを分かち合うのは、神の栄光にあずかるためであると語っています。それは、ありえない場所に、最も暗い片隅に、拒絶され虐待された人々の中に見出される栄光の深みなのです。それは、神が私たちをそのために死ぬに値すると考えておられること、そして、いかなる苦しみや悲しみの経験も、命をもたらす神の力に打ち勝つことができない、と知ることです。

これは聖霊の働きです。私たちがどのような状況にあっても、「聖霊よ来てください」という祈りはそれを変えていきます。特に、あなたの5人の友人が、キリストの苦しみを通して栄光に入ることができるよう、聖霊の働きを祈りましょう。

私たちの人生の美しさ、素晴らしさ、喜びのうちに、それと同時に苦しみや痛みの中にも、再び来られる神の栄光があるのです。

今日も、そしてこれからすべての日にも、あなたの上に、そしてあなたが祈る人々の上に、栄光の霊がありますように。



イラスト アンナ・ヘスロップ
インスタグラム  miss_print_19

聖書 聖書協会共同訳：
©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

thykingdomcome.global

